

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271500884		
法人名	有限会社徳志会医療研究所		
事業所名	グループホーム輝の杜		
所在地	千葉県茂原市緑ヶ丘4-3-2		
自己評価作成日	平成27年12月7日	評価結果市町村受理日	平成28年3月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成28年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るい家庭的な雰囲気の中で、安心してより良い生活を送って頂けるように個別支援を行い、自治会行事・ボランティア・小・中学校の交流等地域の皆さんとの交流を重んじ大切にしています。医療面においてもグループ医療機関の主治医が隣接されている為に、医師・看護師との連携が常にとれる体制を整え利用者様に健康な生活を送って頂けるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型事業所として地域との付き合いや認知症の人を地域で支える取り組みへの協力など地域と連携が良く取れていることが運営推進会議議事録から見てとれる。センター方式を活用し、全職員がアセスメントとモニタリングに関わり課題とケアの仕方まで記入し現状に即したケアプラン作成と共有・実践の仕組みが機能している。家庭的な生活を継続するために、介護力を磨くための研修に力を入れ、職員は常に聞く耳を持ち、真心を込めた寄り添う個別ケアに取り組んでおり、利用者家族アンケートで高い満足度として現れている。グループ医療機関が隣接しており、医師・看護師との連携が常に取れ、医療健康面での安心感も高い。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のケアの中で、常に理念の基本に立ち返り、確認し合うことで、職員一同が理念を共有し実践に努めています。	「介護に真心を・一人ひとりの話を良く聴き良く知り相互信頼に応える・地域と交流し介護力を磨き総合力を高める」との理念を目に触れる所に掲げている。常に理念に立ち返り、認知症ケアを理解し、家庭の延長として家庭的な雰囲気生活して頂くために真心を持って寄り添う個別ケアの実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会行事である夏祭りやゴミ0運動・バザー・小中学校の運動会等イベントにはすべて参加し、交流を深めています。	自治会の夏祭り・青空市場・ゴミゼロ運動や小中学校の運動会・秋祭り・バザー、市の文化祭・コンサートなど地域行事に積極的に参加している。多くの地域ボランティアの方々や保育園児の来訪、併設のデイとの共同行事で地域の方と交流する等、地域の一員として交流が図られている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人を地域の皆さんで支える社会作りを目指し、奉仕活動・バザー・運動会等に積極的に参加しています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域ボランティア・自治会代表・茂原市役所の職員・ご家族等に参加して頂き定期的に開催。サービス状況の報告・地域行事への参加状況・イベント学ぶ会等を議題とし、話し合いや意見をもとにサービス・スキルアップにつなげています。	市の職員・自治会長・地域代表・ボランティア・保育士や家族・入居者等幅広い方の参加を得て2ヶ月に一度定期的開催している。サービス提供状況や外部評価の他、認知症やセンター方式活用のケアプランの解説なども行っている。災害時の地域連携や地域行事への誘い等活発な意見交換が行われ、意義のある運営推進会議となっていることが議事録から読み取れる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から運営やサービスの取り組み等、相談・確認しています。又運営推進会議では毎回出席して頂き、日々のサービスの実情や取組みを伝え連携を図っています。	運営推進会議にも毎回出席頂き、実情やサービスへの取り組みも知って頂いており、相談や質問にも丁寧に対応して頂ける間柄である。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で職員全体で学習・確認・理解するよう努め抑制しないケアに取り組んでいます。	身体拘束廃止推進研修で、身体拘束について理解を深め確認し合うようにしている。身体拘束をしなくても済むケアをするよう職員間で話し合い、色々工夫するようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止推進研修で学んだ事を職員全員が学び合い、虐待について正しい知識を学び、理解する事で「虐待はしない・させない」というケア統一に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	千葉県高齢者権利擁護研修を通じて学んだ事を、社内研修の場で職員全員が、援助に必要な知識を高め、家族との対応の中でそれらを活用できるよう支援しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を交わす際は口頭で説明しご理解いただいた上で署名・捺印をして頂きお渡しするようにしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や日頃の面会時に意見要望の場を設け運営に努めています。	毎月の「輝の杜通信」でホーム内での日常生活状況などを詳しくお知らせし、家族との信頼関係を築くようにしている。運営推進会議でも多くの意見を頂出し、多くの家族に面会に来ていただけており、意見や要望を話し易い雰囲気作りをしている。意見や要望は職員間で共有し運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表や管理者は日頃から職員の意見や提案等を聴く機会を設けています。	代表も参加する全体会議の場で、意見や要望を聞く機会を設けている。また、管理者も日常的にケアに携わっており、職員からの意見や提案を聞く機会が多い。日誌とケース記録の重複の解消や休憩時間の取り方の工夫など職員意見を運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より職員一人ひとり声を掛け、職員個々の努力や実績等に目を向け、事情に合わせ勤務状況を考え、向上心が持てるよう配慮しています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の書類を回覧し、行く機会を積極的に進め各自がスキルアップできるよう進めています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型外房連絡会の会員なので、サービスの向上を目指し、随時交流会・研修会に参加しています。又介護事業所間のコミュニケーションを深め交流する活動をサービスの質に反映させています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日の状況を観察しながら、いつもと違う行動に気づき、受容・傾聴態勢を心がけ信頼関係を築くよう努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見や要望・悩みに耳を傾け、ご家族の思いに寄り添い関係づくりに努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階は本人・ご家族の気持ちに応じられるような安心できる環境作りを心かける中で、それぞれの意見や思いを聴き取り支援を見極め、サービスへとつなげています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼し合える関係を日々の関わりの中で作る様に努め、人生の先輩として経験談等にも耳を傾ける柔軟な対応を心掛けています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密にとり、又家族への毎月のホーム通信を送付し日々の出来事や生活状況を知って頂き、共に支えていく関係を築けるよう努めています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人の面会も常に受け入れ、本人にとって、一人ではない事を認識して頂き、又馴染みのある場に出かけ食事や四季折々の花鑑賞を楽しんで頂いています。	近所の方が子どもを連れて面会に来たり、東京から親戚やお孫さんが来る。自宅で外泊される方の支援や七夕見物、コスモス畑、菖蒲園など馴染みの場所にお連れしたり、自宅近くや元の職場へドライブする等、一人でないことを認識して頂けるよう、馴染みの関係を継続する支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わりの中でお互いに助け合い・支え合い、一人ひとりの個性を生かしながらよりよい関係を築いていくように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの連絡や必要に応じ対応し、家族の思い等を共有出来る関係性を継続できるように努めています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式活用で利用者様一人ひとりの思いや・生活歴・暮らし方を理解し、サービス担当者会議にて本人本位の意向や要望の把握に努めています。	センター方式を活用し、今までどのように生きてきたか、できることは何かを読み取り、本人の表情を把握し共有して支援している。入居者のADL変化時、もしくはプラン更新時に全職員がEシートを記入し、ケアマネジャーがカンファレンスで職員の意見を聞いて総合的に判断することで本人本位に検討しケアしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様からのお話やご家族からの生活歴や習慣等の情報、又サマリー・基本情報を基に支援の経過の把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り・毎月のミーティングの中で、事前に職員一人ひとりが記入したアセスメントシートを持ち寄り話し合い・情報を共有し現状の把握に努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを開き、又ご家族とはサービス担当者会議を開催し、要望や意見を聴きケアプランに反映させ、プランの変更は定期的実施し現状に即したケアプランを作成しています。	モニタリングは3カ月毎、全職員がモニタリング表で短期目標とサービス内容に関して評価をしている。プランには医師と訪問看護師のアドバイスや、家族の意向が反映されている。カンファレンスは日勤と夜勤の大切な情報共有の場ともなっている。モニタリングとアセスメントに全職員が参画しており、チームで作る、現状に即した介護計画とケアになっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をよく観察しケース記録や日誌に記入し、職員間の情報の共有を図り、統一したケアを行なえるように活用しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスが併設、利用者様同士の触れ合いを目的にデイサービスの毎月の行事には参加し、又設備等の共有を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアによる生け花やフラワーアレンジメント教室・消防署立ち会いの避難訓練・中学校の生徒さん達の職場体験・演奏会等地域の方々の交わりを深め豊かな生活を楽しんでいただけるように支援しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する宮本内科医院にて1ヵ月に2度の往診を受け、又地域の訪問歯科利用等、日々健康で暮らしていけるように支援し、医師との連携を密にとり適切な医療が受けられるよう努めています。	体調不良時にも受診しており、週5日は往診医が来る体制となっている。薬局を統一できたことで薬剤師と相談しやすくなり、薬に対する職員の知識も深まった。他科への受診としては、整形外科、神経科、眼科があり家族が同行している。往診医の休診日には訪問看護が入っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で変化のある場合は宮本内科医院へ連絡し、看護師に状況を説明、先生に指示を仰いでいます。又必要に応じ訪問看護も利用し適切な看護を受けられるよう努めています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先との情報の共有・ご家族を通しての情報交換を行い、又面会を通じて状態を把握して退院に向けての準備をしています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・宮本内科医院の院長・代表・管理者と、今後の方針をしっかりと話し合い、家族の気持ちを受容し、地域の訪問看護・又看取りのケアプランをたて職員にも方針を説明しチームとして協力し取り組んでいます。又平成25年7月に登録の喀痰吸引も看取りのケアにつなげています。	入所時に終末期の希望を聞いている。終末期には主治医から家族に説明があり、ターミナルケアプランを作成し、カンファレンスでは具体的な対応の確認をしている。24時間対応の訪問看護と連携しており、看取り後はエンゼルケアも担っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えての社内研修や職員間での確認に努め、実践的に身につけています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者様を安心・安全に避難できるよう、定期的に消防署立ち会いの元、避難訓練を行っています。又夜間帯での火災や災害時を想定し、夜勤者でのシュミレーション避難訓練実施もしています。	夜間想定訓練を2回実施し、会議で反省点も話し合っている。夜間には10分以内に駆けつけることのできる職員が6名いる。備蓄は3日分を用意。正職員は避難訓練を全員体験済みで、新規職員にはなるべく早く避難訓練を体験してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや言葉がけは日々意識し、社内研修の中で各自で確認し合い相互に声を掛け、一人ひとりの尊重とプライバシーを損ねない言葉掛けや行動に注意し、心と心の繋がりを大切にしながら笑顔で対応するように努めています。	入居者のプライドを損ねることのないよう声かけしている。職員の言い方で気になることがあるときは、管理者が注意している。トイレ誘導でも、「トイレ」という単語を使わずにお誘いしている。義歯装着を嫌がる人には刻み食を常食の盛り付けに近づける配慮をして提供している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意向や希望を日々の対話の中でつかみ、それを表現できるように、又個人の好みや主体的な決定を尊重する様に支援をしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに焦点をあて、その方がどのように暮らしたいのか、何を希望しているのかを見極め、それを実現できるよう、その人のペースを大切にしよう努めています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問カットを利用し、その人らしい身だしなみができるよう支援しています。外出の時等は、ご自分でおしゃれを楽しめるご利用様はご本人のセンスで支援の必要な利用者様には洋服を一緒に選びおしゃれを楽しんで頂けるようにしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	残存能力・個々の力を活かし、お茶を入れて頂いたり、食後の食器拭きや片づけ等も手伝って頂いています。又献立を自由にできる日は、利用者様のお好きな物を献立に取り入れています。	食事は常食、刻み食、ミキサー食で提供している。毎月外食を楽しみ、行事食もあり、誕生日にはケーキでお祝いをしている。土日の昼食はユニット毎に自由メニューとしている。調理を手伝う入居者もいる。入居者のご家族から野菜をいただくこともある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じ食事形態を変え、主治医の指示のもと食事制限をされている方や体調等により食量・水分量の確保が必要な利用者様には摂取量を記録し支援しています。又残食が無い様に器の盛り付け方等を工夫しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・口腔ケアの実施は徹底しています。肺炎予防の為に個々の状態に応じ口腔ウエッティーを使い口腔内の清潔保持に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、一人ひとりのペースを把握し声掛けや誘導を行うことで排泄能力の維持・向上を目指し排泄の自立を維持する支援に努めています。	立ち上がりの安定感の向上を目指していた方が立位をとれるようになり、オムツからリハビリ使用に改善した。尿意・便意があればトイレでの排泄を支援している。トイレが設置されている居室もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養面での献立・飲食物の工夫、入浴や運動を実施する中で、日々の生活リズムを整え予防に取り組んでいます。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの残存能力に応じて、リフト入浴や一般浴に入っただき、利用者様の心地良い入浴と安全が保たれるように支援しています。	拒否のある方にも声かけを工夫し、週2回の入浴を支援している。医師の指示により全員が固形石鹸を使用し、入浴後には保湿剤を塗布している。ゆったりとお風呂に浸かる方、歌ったり、曲を聞きながら入浴する方などそれぞれ楽しんでいる。2階は一般浴で3階は特浴となっており、ADLに応じて対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の利用者様の生活リズムやその日の体調等を把握し、安心して気持ち良く眠れるよう静かな環境を心がけています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬品服用表を常時ケース記録のファイルに添付し、又申し送りノートに記載し職員全員に伝わるように努めています。服用後の状態は、宮本先生に報告し、症状の変化の確認に努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き・洗濯干しや片づけ・モップ拭き等それぞれが自然にやれる事を役割としています。又全員がホーム内の大運動会に参加し達成感や気分転換をして頂き、有意義な日々が送れるように努めています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への散歩は、散歩実施表を確認し一人ひとりが日常的に行っており本人の希望に添うように支援をしています。又地域のイベントや外食会・コンサート参加等に努めています。	ホームの周辺を散歩している。初詣、各種お花見、美術館、七夕まつり、夏祭り、小学校運動会、中学校バザー、海、外食など様々に出かけている。地域の夏祭りでは入居者が盆踊りに参加することができた。家族と自宅に戻ったり、外食を楽しむ方もいる。	散歩実施表を更に上手く活用し、日頃の外出支援に役立てるよう活用されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様所持品は金庫にて管理し、買い物・外食・希望される品物の購入時には対応しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙については利用者様より、希望時に対応しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは自然の光が入るよう、又窓から季節感を感じる事が出来るように常に配慮し、廊下・リビング等の飾りは利用者様と実施し生活感・季節感を採り入れ居心地の良い場となるよう工夫しています。	各フロアエレベーター前には入居者の最近の写真が掲示されている。廊下にはソファとイスがたくさん配置され、習字や絵画が飾られている。3階は午前中の明るさをカーテンで調節している。リビングには書写の掲示や入居者の意見を取り入れた季節の飾りがされている。朝には湯を沸かすとともに加湿器を使用している。1階にある玄関前の花壇へは入居者が水遣りをし、夏にはミニトマトを収穫した。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う者同士、席も近く安心して過ごせるように工夫をし、又ソファや廊下にも長椅子をセッティングし自由に過ごして頂けるようにくつろげるスペースも確保しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様のなじみの物や好みの置物・写真、又利用者様の希望に添って冷蔵庫等、必要に応じた物を本人や家族と相談しながら居心地良く過ごせるよう支援を行なっています。	ベッド、エアコン、洗面コーナー、カーテンもしくはブラインドが完備されている。トイレやクローゼット設置の居室もある。机、いす、タンス、冷蔵庫、ぬいぐるみ、人形、家族や犬の写真、花を持参されている。大好きな球団のカレンダーを掲示したり、フラワーアレンジメントの作品が飾られている部屋もある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人にわかる目印(トイレ・居室)・月日や季節がわかるカレンダー・ご本人の名前と生年月日を示した掲示物等により自立した生活が送れるよう又ホーム内は、安全に生活して頂ける様に環境設備に努めています。		